

会議録

会議の名称	令和6年度 第1回 西東京市青少年問題協議会
開催日時	令和6年7月4日(木) 午前10時から午前11時15分まで
開催場所	西東京市役所田無第庁舎5階 502会議室
出席者	出席委員：池澤市長（会長）、高松副会長（座長）、今井委員、井上委員、紺野委員、瀬沼委員、鈴木委員、田村委員、波田委員、濱野委員、平井委員、村上委員、森本委員、山崎委員、湯浅委員 事務局：遠藤子育て支援部長、河野児童青少年課長、菅原児童青少年課管理係長、水田児童青少年課管理係主任、中村児童青少年課管理係主事 欠席委員：なし
議題	1 協議事項 活動テーマの決定について 今後のスケジュールについて 2 その他
会議資料の名称	会議次第 資料1-1 西東京市青少年問題協議会委員名簿 資料1-2 西東京市青少年問題協議会専門部会委員名簿 資料2 令和6年度第1回青少年問題協議会専門部会について 資料3 第12期青少年問題協議会スケジュール案 参考資料1 地方青少年問題協議会法 参考資料2 西東京市青少年問題協議会条例 参考資料3 西東京市青少年問題協議会条例施行規則 参考資料4 西東京市青少年問題協議会代理出席要領 参考資料5 西東京市青少年問題協議会傍聴要領
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
◆前回会議録の承認	
1 協議事項 活動テーマの決定について	
○座長： 第1回の専門部会で話し合われた内容について専門部会長より説明を求める。	
○専門部会長： 5月14日に開催をした専門部会では活動テーマの候補の決定をした。子どもたちの居場所や、SNSの問題について意見をいただいた。SNSについては、学校で配布されたタブレットで情報収集をし、親とのコミュニケーションなしに宿題を終わらせてしまうといったことや、表面的なやり取りで友達となれてしまう一方、一度も会ったことのない人	

を信用してしまうなど、危険性もはらんでいる状況であるとの意見もあった。早急に状況把握をすることが大切であると考えた結果、「オンライン時代の居場所」というテーマを部会としては候補として決定をした。

○座長：

オンライン時代の居場所というテーマに関して意見はあるか。

○A委員：

コロナ禍や時代の経過により子どもたちの遊び方やコミュニケーションの取り方が変化している。その中で、子どもたちの居場所も変化しているため、オンライン時代の居場所について検討できればと考える。

○B委員：

子どもと一緒にオンラインゲームを楽しむことや、子どもがいる世界をのぞいてみるのも良いことではないか。

○C委員：

不登校の子にも社会との繋がりを持ってほしいので、「オンライン時代の居場所」というテーマは良いと考える。

「オンライン時代の居場所」の後に「知る」などを付けると、分かりやすいのではないか。

○D委員：

ネットから離れた環境で楽しく過ごしても、家に戻るとゲームなどをしている。

今の子どもたち同士の関わり方がネットを介するなど変化をしているため、このテーマが良いのではないか。

○E委員：

スマホやSNSの利用について家庭内でルール作りが重要であると考えます。

学校から支給されたタブレット等には、自動的にシャットダウンをするサービスの利用も検討してみてはどうか。

○F委員：

SNSが中心の生活をしている子どもがいる。写真を交換しただけで相手を信用し、危機感がない様子であった。中学校に進学したら地方にいるネットの友達と会っても良いと保護者から言われた様子で不安である。

○G委員：

対面での付き合いでもしないようなことをオンライン上でもしないように子どもたちに理解してもらうべきである。

危険性の認識をしてほしい。

居場所というところでは、ネットが最後の砦となる可能性もある。

○H委員：

年代が異なる人と繋がることにより、生活スタイルが異なり昼夜逆転してしまうが、嫌われるのを恐れてグループを抜けるに抜けられない状況にある。

断れる力を養えるようにサポートしたい。

表面的には危険であるという認識はあるものの、真に危険性を理解してもらいたい。

○I委員：

コロナ禍で大学生活を送った人たちが就職した後の人間関係で問題になっている。

子どもたちの可能性を止めてはいけませんが、スマホやタブレットを使用するうえで制度設計は必要である。

○J委員：

背を向けてタブレットを見て会話をしている状況である。人間性を育むにあたっては、この状況は良くない。

○K委員：

警察においてもSNSの相談が非常に多い。

ルール作りと親が管理することが重要である。

家出やオンラインゲームでの課金トラブルなどがある。

○L委員：

30年前の非行は万引きや薬物事案が多かったが、SNSの発達により、ハッシュタグ等を付けて隠語を使用し、売人と接触できる状況でどこでも薬物を入手できる状況である。

児童ポルノや特殊詐欺等もSNSが犯罪に結びついている。

しかし、SNSを否定するのではなく、SNSの危険なところを理解し、子どもたちが自主的、自立的に身に付けてもらうことが重要である。

ネットの何が危険か学習してもらうことは、とても求められているため、「オンライン時代の居場所を知る」というテーマに賛成である。

○M委員：

以前は、居場所とは、施設等を考えていたが、現代はSNSなどのインターネット上にある。

ネット上で顔を見ずにやり取りをしていると、先入観などで勘違いをしてしまう恐れがある。

子どもたちは、大人が想像する数倍のスピードで発達しており、保護者が子どもたちのネット利用についていくのは難しいと考える。

○N委員：

中学生になったときにどのような不登校の予防策が取れるかも検討すべきであるが、今の子どもたちは、産まれてすぐにスマホ等で動画を見ている環境にあたり、泣いて

保育園を行きしぶるなど幼少時代での対策も課題であるとする。

コロナ禍が原因の1つであるが、今の子どもたちは大人が間に入らないと集団で遊ぶことができない様子を目の当たりにした。

○座長：

テーマをより明確にするために、「オンライン時代の居場所を知る」というテーマでよろしいか。

(異議なし)

○座長：

テーマに対して具体的な取り組みは専門部会にて話を進めることでよろしいか。

(異議なし)

1 協議事項

今後のスケジュールについて

○座長：

事務局より今後のスケジュールについての説明をお願いしたい。

○事務局：

本日、活動テーマが決定したため、令和6年8月、10月に専門部会を開催し、ヒアリング等を実施する。

令和6年11月に第2回協議会を開催し、専門部会の報告をしていただく。

令和7年2月に専門部会の開催を予定している。

2 その他

○座長：

事務局より何かあるか。

○事務局：

11月の協議会の日程について事前に調整をさせていただく。

○座長：

以上で令和6年度第1回青少年問題協議会を終了とする。

閉会